



# 2011 高校生の

# 「建築甲子園」

～地域のくらし～

後援 国土交通省

審査総評

審査委員長  
片山和俊  
(東京藝術大学名誉教授)

審査員  
衛藤照夫  
(ゆう建築設計専務取締役)  
定行まり子  
(日本女子大学教授)  
豊永信博  
(南栄開発顧問)

少し重荷ではなかったろうか。

今回の第2回建築甲子園に寄せられた35作品を見た時の第一印象である。第1回に較べ作品の表現レベルは確実に上がっていたが、全体的におとなしく真面目な感じを受けた。キチッと考えて貰いたいのはやまやまだが、その一方でもっと大胆で元気溢れた作品を待っているようなところがある。今回の作品群の凡の傾向は前者で、飛躍するには難しいテーマかなと反省が頭をかすめた。

考えてみればテーマの“地域のくらし”は、私たちの世代を含めて先人たちが築こうとして築けなかった問題が山のようにあり、それを若い高校生の諸君に託して背負わせようというのだから、“そんなの重いよ”と一蹴されても仕方がない。受け止めて貰えるだけでよしとしなければならないようだ。何しろ現在の日本は、地方に地域性があっても過疎化し経済環境がよくない。一方都会に賑わいはあっても、地域性やコモンが見えない状態。そこから応えて欲しいというのだから無理難題ではある。真面目に取組めば取組むほど、現実的に考えれば考えるほど夢を描きにくく、表現が地味になるのもやむを得ない。しかも今年は3.11東日本大震災があり、被災地は勿論、日本の各地で明るい未来を描くような気持ちにはなれなかったかも知れない。一瞬にして“地域とくらし”が破壊され痕跡すら見えなくなってしまった大自然の猛威に、立ちすくんでしまったというのが正直なところである。けれどもこの被災を乗り越え、また何時くるか分からない猛威に立ち向かうには、やはり“地域とくらし”しかないことを改めて思い知らされた。そして無理難題と分かっているやってみなければ、先人たちの本当の苦勞は分からないと思ひ返した。

さらにコンペティションは、初回に較べて2回目の方が難しいことも確かだろ

う。無手勝流と行かなくなった分、考えることが増えて慎重にならざるを得ないからだ。その上で作品を見直すと、自分が住む地域への愛して止まない思いと重い現実との間、その狭間にそれぞれに見出した高校生諸君の確かな問題意識と提案の数々が見えてきた。その中で勝ち上がった作品は、自分や自分たちの閉じた世界で終わるのではなく、地域への広がりや他への影響を与えることが期待でき、現実の小さな種から未来に向けて夢を描けるものであり、その鮮明さと強さが勝敗を分けたように思われる。

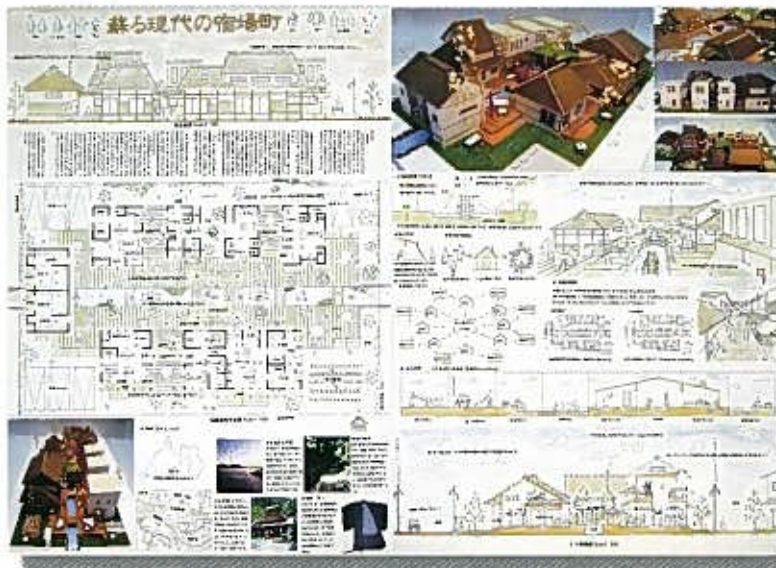
審査方法は昨年準トーナメント方式で行った。はじめに審査員がそれぞれ全作品の採点を行い、シード校を選び、抽選で対戦高校を決めて2校ずつ議論して勝敗を決めながら進めた。好敵手が早めにつかる不運もあったが、大旨順調に戦いが進んだ。終盤に近づき、昨年と同じように滋賀と静岡の闘いであることが分かり審査に熱が入ったが、今年はいれ替って静岡の勝利となった。まさに甲子園の熱戦のようであった。全体的に見ると若干東日本の方の作品に元気があり、西日本から四国・九州地方に勢いが足りなかった。理由は分からないが、これからの奮起を期待して待ちたい。

最後に昨年も指摘したことだが、平面図に色を使い過ぎる作品が目についた。空間には色がない。折角構成した空間的な魅力が、図面から読取りにくいので注意して貰いたい。もう一つの不満は丁寧な説明を心がけたためかも知れないが、文字量が多く文字が小さく読みづらい作品があったこと。共にコンピュータという便利な表現手段に縛られた弊害かも知れない。紙に打ち出された作品を少し離れて見た時に、見やすく理解しやすいように配慮するのも作品をまとめる基本的なセンスの一つではないかと思われる。

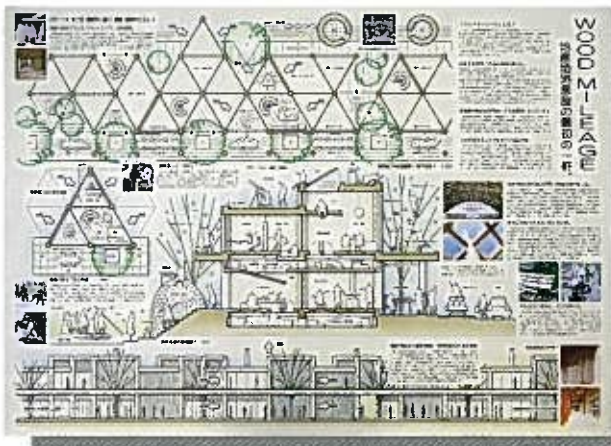
(審査委員長 片山和俊)



**静岡県立科学技術高等学校**  
蘇る現代の宿場町



**滋賀県立安曇川高等学校**  
WOOD MILEAGE 地産地消屋の最初の一軒。



## 審査委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
長崎県立佐世保工業高等学校	丘のまちに住む ～住み続けられる斜面住宅地を目指して～

## BEST 8

高校名	応募作品タイトル
青森県立青森工業高等学校	若きねぶた師の家
山梨県立甲府工業高等学校	Terroir ～葡萄棚の下の住空間～
三重県立伊勢工業高等学校	伊勢河崎の町屋美術館
京都市立伏見工業高等学校	十字路のある家
佐賀県立佐賀工業高等学校	街の駅 えびす屋
鹿児島県立華人工業高等学校	むかひもいまも ～昔も今も～

## 奨励賞

高校名	応募作品タイトル
北海道札幌工業高等学校	四季を楽しむ・人情味あふれる (懐かしき) 北の都会くらし
宮城県古川工業高等学校	～絆～「がんばっぺ宮城!!」 古き良き農家住宅からの一歩・いこい・やすらぎ・コミュニティのある仮設住宅・・・
秋田県立横手清陵学院高等学校	自由回廊 ～今の地域の在り方は?～
山形県立山形工業高等学校	水と空気 = 山形五郷とそよ風でつながる家
福島県立会津工業高等学校	夢を追う・・・若者達へ
栃木県立宇都宮工業高等学校	大谷石がれき再利用計画
埼玉県立春日部工業高等学校	おせん茶屋 ～名物から街の歴史を知る～
千葉県立市川工業高等学校	再生と利用 ～歴史遺産を生活の場へ～
長野県飯田長姫高等学校	温故知新 ～「本棟造り」の民家で地域の暮らしと景観を創造する～
新潟県立十日町総合高等学校	デザインの規範フレームから楽しむ
名古屋市長津工業高等学校	おかえりなさい
富山県立高岡工業高等学校	私たちの「万葉」ふるさとづくり
金沢市立工業高等学校	香りと木漏れ日
福井県立武生工業高等学校	ふれあいのある家

高校名	応募作品タイトル
大阪府立工業高等学校	House in the sun
国立明石工業高等専門学校	水を介した共生
奈良県立奈良朱雀高等学校	今井町
和歌山県立和歌山工業高等学校	Happy Smile Home
岡山県立津山工業高等学校	醍醐桜の見える家
広島県立福山工業高等学校	「地域をもっと元気にさせたい」
徳島県立徳島科学技術高等学校	『水と文化と対話する』
愛媛県立松山工業高等学校	郷のやすらぎ ～三津地域の豊かな暮らしを目指して～
高知県立宿毛工業高等学校	ただいま
大牟田高等学校	サービス付き高齢者向け賃貸住宅
熊本県立球磨工業高等学校	輪家 (わかか)
宮崎県立日向工業高等学校	「美々津の街は住みやすいば～い」

### ★兵庫県の応募作品について

高専からの応募は、現時点では参加登録をお断りしています。今まで、いくつかの応募に対して担当の建築士会からの強い要望がある場合も受付けていませんでした。今回は、当該建築士会が県大会での優勝作品としたものです。本審査会では議論百出でしたが、建築を志す若者の気持ちを考慮し、他と同様に審査した上で、今後への期待を込めて奨励賞相当と致しました。

※高校生の建築甲子園は、財団法人建築技術教育普及センターによる平成23年度第1回普及事業助成の対象です。

出場校の全作品と審査評は(社)日本建築士会連合会のホームページでご覧いただけます。